

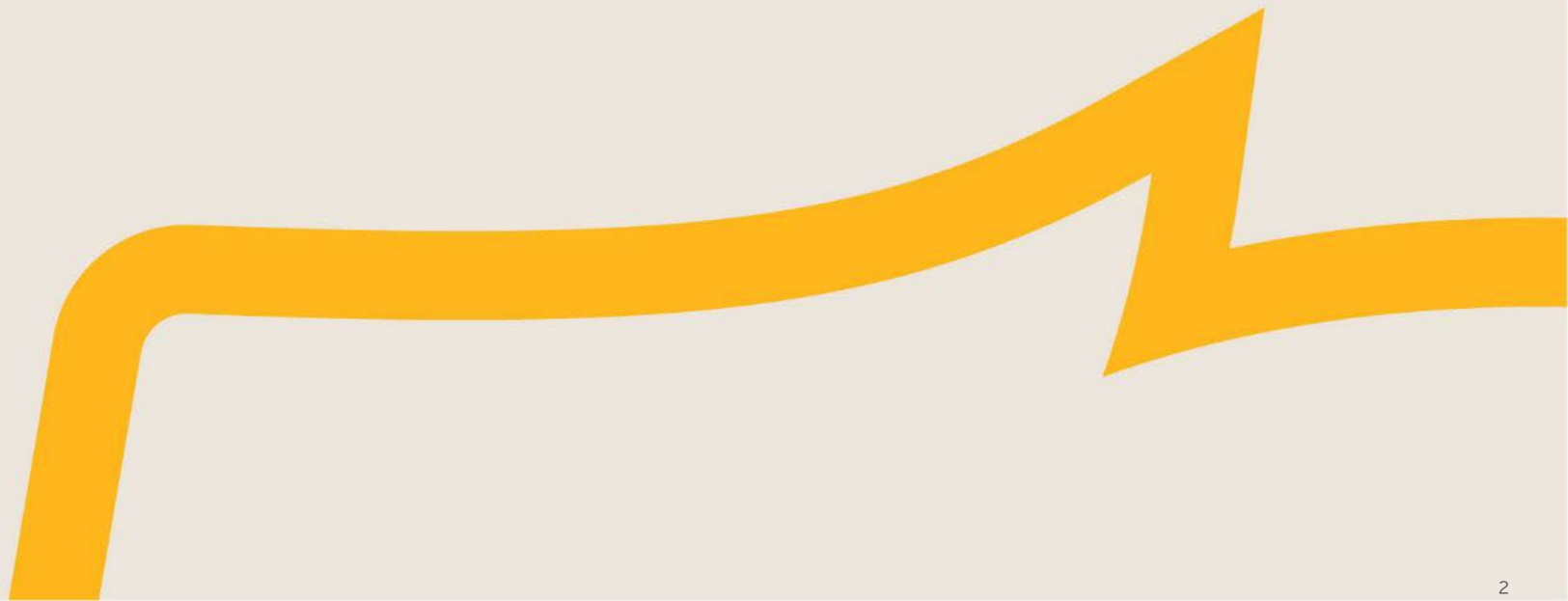
# 2024年3月期 第1四半期 決算短信補足資料

2023/8/4

株式会社ニッスイ



# 2024年3月期 第1四半期決算概況



## 2024年3月期第1四半期 サマリー

- ・増収増益でスタート、計画に対しても順調に推移。
- ・水産市況の変調で苦戦する魚種があるなか、養殖事業の改善が進んだうえ、値上げが追い付かず苦戦していた食品事業が大きく回復。

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	対前年同期比		2024年3月期 計画 (5月発表)	進捗率 (%)
			増減	増減率(%)		
売上高	1,842 億円	1,998 億円	155 億円	8.5	8,000 億円	25.0
営業利益	66 億円	97 億円	30 億円	45.6	270 億円	36.0
経常利益	73 億円	97 億円	23 億円	31.7	290 億円	33.5
四半期 純利益	42 億円	59 億円	17 億円	41.3	215 億円	27.8

## 2024年3月期第1四半期 セグメント別概況

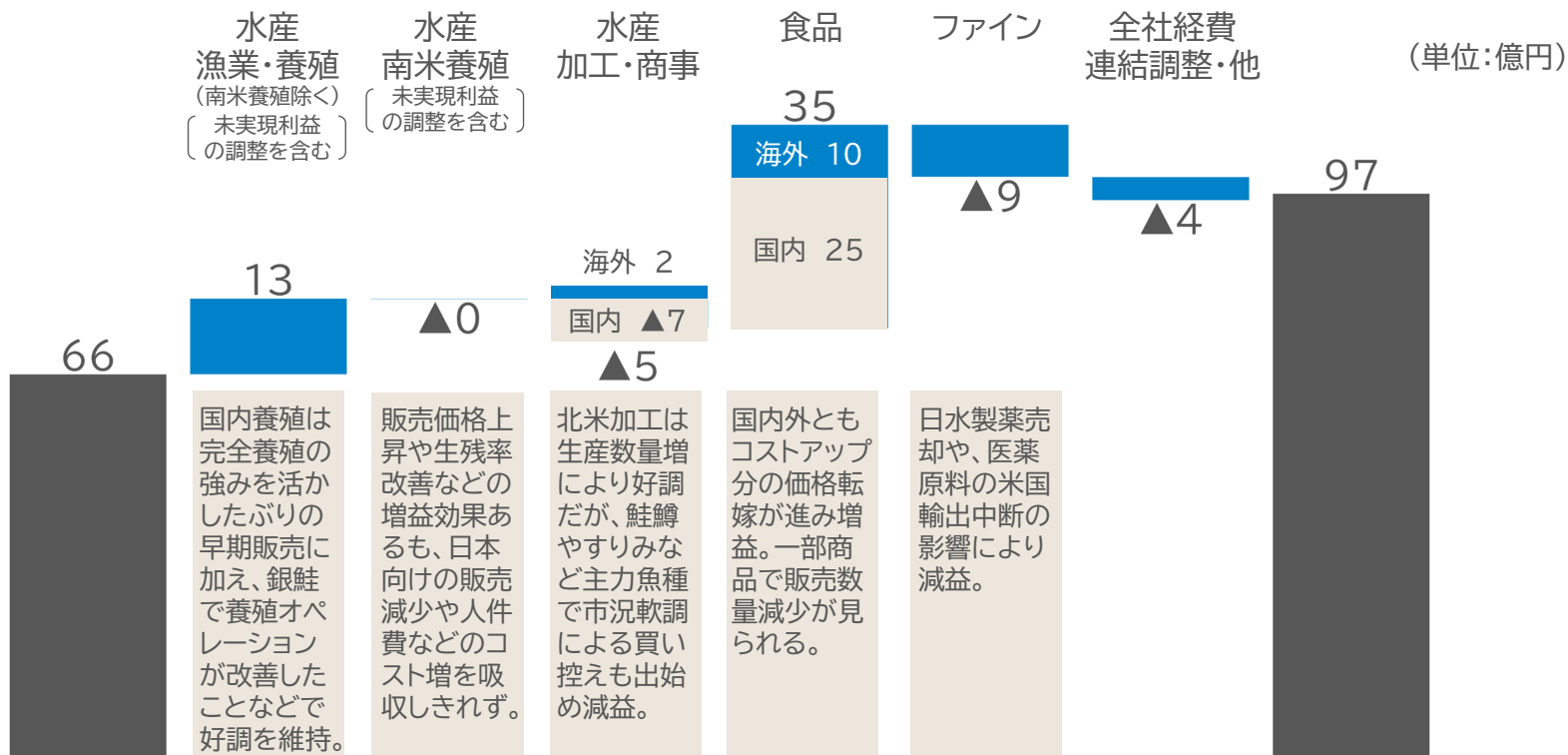
食品は業務用や健康領域商品の拡大に加え、値上げ効果や為替影響で大幅増収。ファインケミカルは主として日水製薬(※)売却による減収(約40億円)が影響。

(単位:億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>1,842</b>	<b>1,998</b>	<b>155</b>	<b>8.5</b>
水産事業	757	789	32	4.3
食品事業	929	1,090	160	17.3
ファインケミカル事業	81	38	▲43	▲52.7
物流事業	39	37	▲1	▲3.5
その他	34	41	6	19.6
<b>営業利益</b>	<b>66</b>	<b>97</b>	<b>30</b>	<b>45.6</b>
水産事業	41	42	1	2.6
食品事業	36	72	35	97.2
ファインケミカル事業	8	▲0	▲9	—
物流事業	4	4	▲0	▲9.4
その他	1	1	0	7.4
全社経費	▲26	▲22	3	▲14.6
<b>経常利益</b>	<b>73</b>	<b>97</b>	<b>23</b>	<b>31.7</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>42</b>	<b>59</b>	<b>17</b>	<b>41.3</b>

(※)現:島津ダイアグノスティクス株式会社

## 2024年3月期第1四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

国内養殖がぶりの早期販売などで増益を確保できたうえ、食品もコストアップに対する価格転嫁が概ね実現し増益。ファインケミカルは米国向け輸出が再開せず苦戦。



# 2024年3月期第1四半期 連結貸借対照表(前期末比)

前期末比で運転資本の増加に伴い短期借入金が増加。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減						
<b>流動資産</b>	<b>3,235</b>	<b>(+191)</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,156</b>	<b>(+168)</b>	
現金及び預金	83	(▲20)	支払手形及び買掛金	511	(+10)	
受取手形及び売掛金	1,028	(+71)	短期借入金	1,180	(+174)	
棚卸資産(在庫)	1,831	(+73)	未払費用	262	(+4)	
<b>固定資産</b>	<b>2,493</b>	<b>(+47)</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,293</b>	<b>(▲2)</b>	
有形固定資産	1,518	(+28)	長期借入金	1,039	(▲9)	
無形固定資産	140	(▲0)	<b>純資産</b>	<b>2,279</b>	<b>(+73)</b>	
投資その他の資産	835	(+19)	自己資本	2,242	(+74)	
<b>総資産</b>	<b>5,729</b>	<b>(+239)</b>	自己資本比率			
			'23/3	39.5%	⇒ '23/6	39.1%

## 2024年3月期第1四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

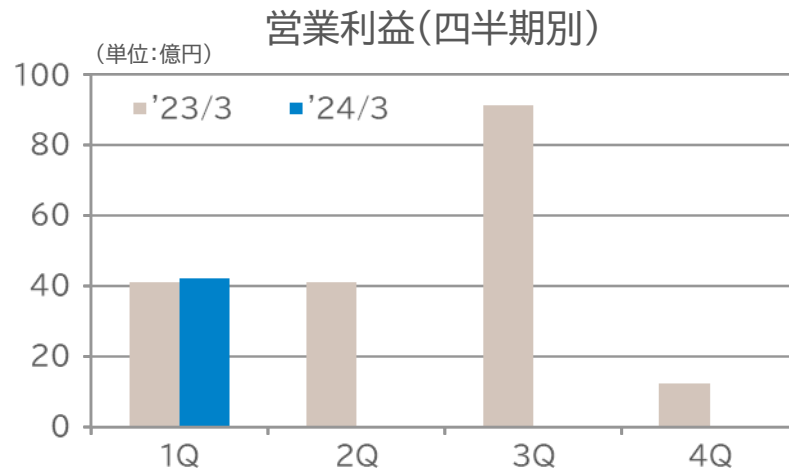
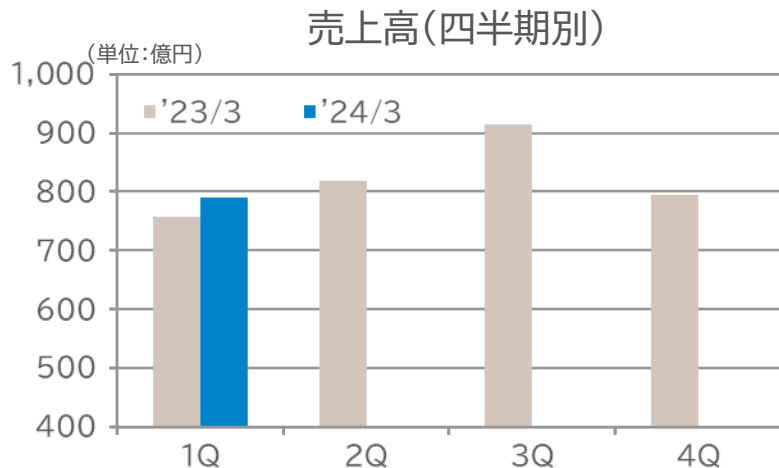
人流回復に伴う活動量増で運転資本が増加。

(単位: 億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減
・税金等調整前当四半期純利益	75	89	13
・減価償却費(のれん償却含む)	47	50	3
・運転資本	▲ 74	▲ 123	▲ 48
・法人税等の支払額	▲ 44	▲ 31	12
・その他	▲ 38	▲ 0	37
<b>営業活動によるCF</b>	<b>▲ 34</b>	<b>▲ 16</b>	<b>18</b>
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 60	▲ 61	▲ 0
・その他	28	▲ 68	▲ 97
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 31</b>	<b>▲ 129</b>	<b>▲ 97</b>
・短期借入金の増減額	126	205	79
・長期借入金の増減額	▲ 29	▲ 52	▲ 23
・その他	▲ 28	▲ 33	▲ 5
<b>財務活動によるCF</b>	<b>68</b>	<b>119</b>	<b>50</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>163</b>	<b>123</b>	

## 2024年3月期第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

市況が軟調になるなか、前年同期並みの利益を確保。

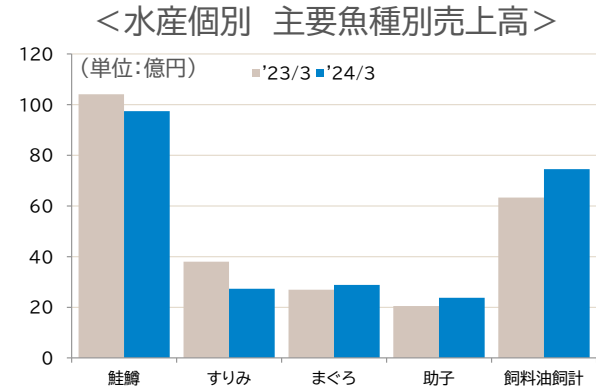
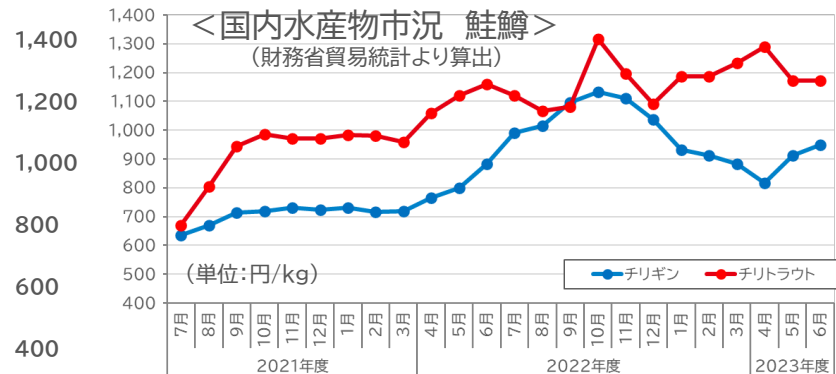
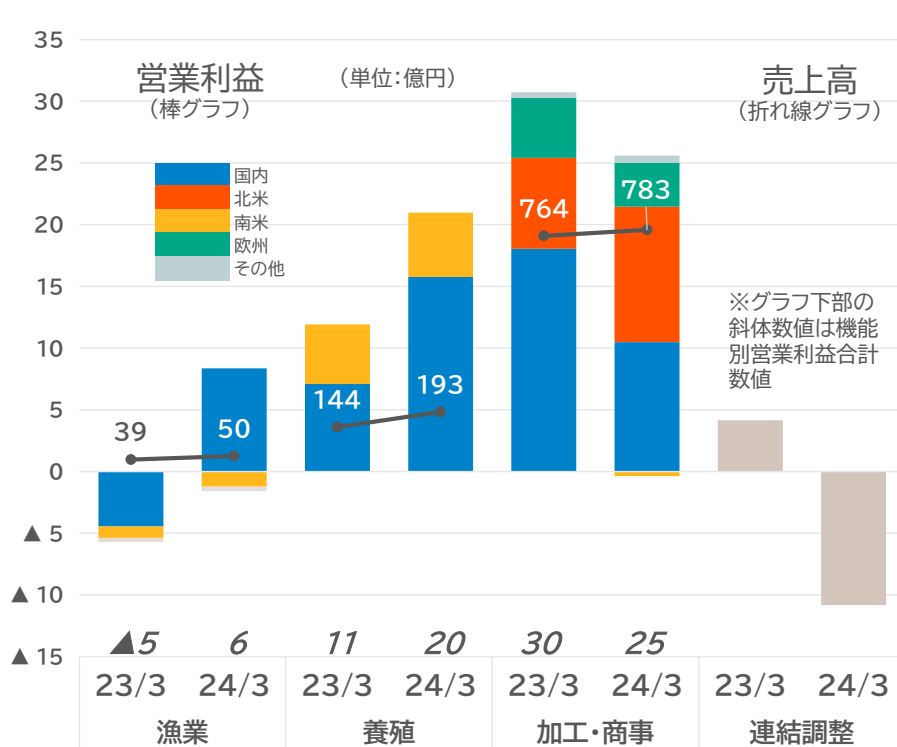
(単位:億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	757	789	32	4.3
営業利益	41	42	1	2.6





# 2024年3月期第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

- ・養殖は生育環境やオペレーション改良による養殖成績の改善が進み伸長。
- ・北米加工は漁獲枠増による生産増に加え助子の前倒し販売で増益も、商事は販売数量減で苦戦。

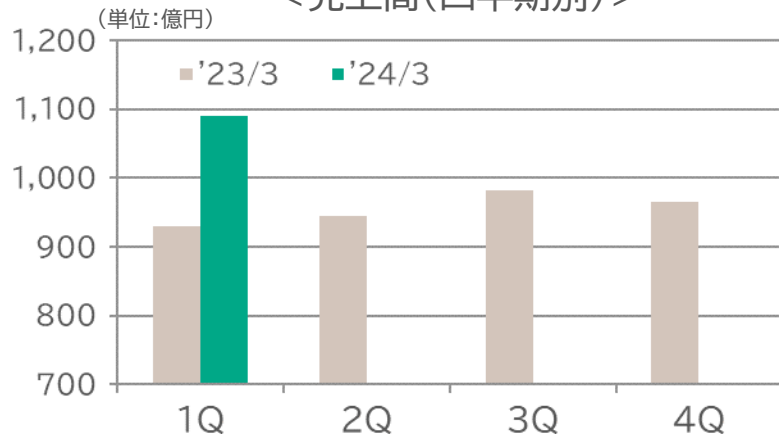


# 2024年3月期第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

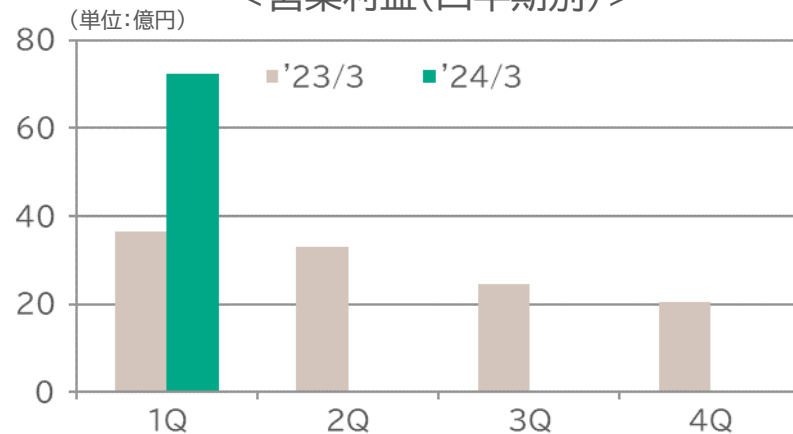
国内外とも増収増益。

(単位:億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	929	1,090	160	17.3
営業利益	36	72	35	97.2

<売上高(四半期別)>

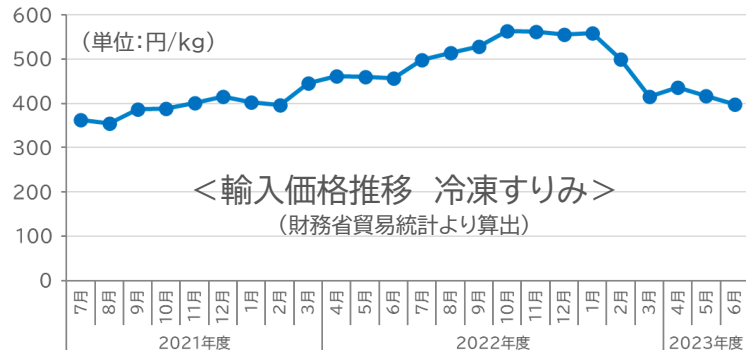
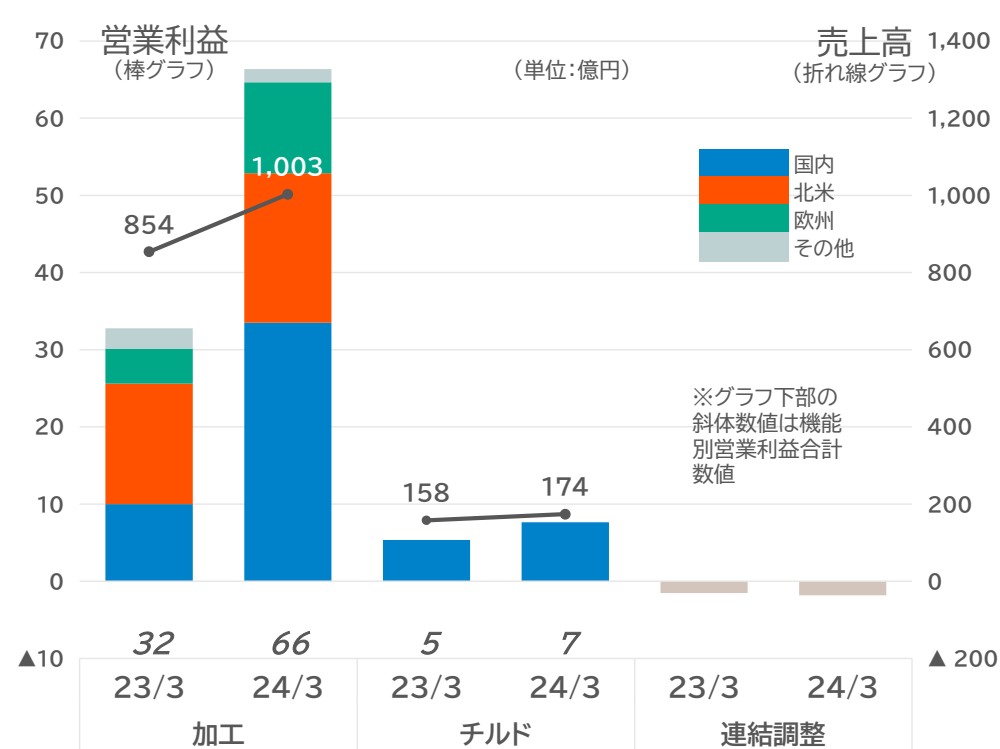


<営業利益(四半期別)>

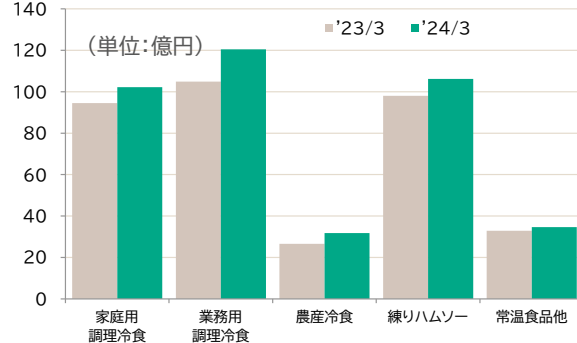


# 2024年3月期第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

国内外ともに人流回復により外食などの業務用が好調に推移したことに加え、健康領域商品の拡大や値上げの効果で大きく伸長。チルドもCVS向けおにぎりなどが順調で増収増益。



## < 食品個別 カテゴリー別売上高 >



## 2024年3月期第1四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

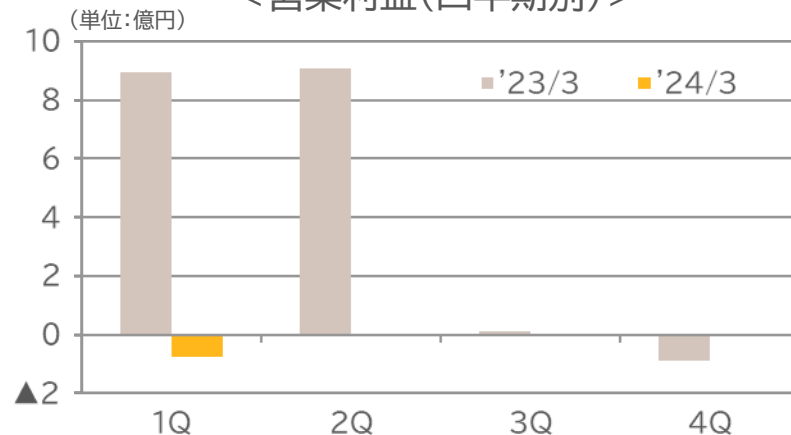
■ 日水製薬売却(2022年9月)による影響に加え、医薬原料の米国向け輸出が昨年から中断したこともあり減収減益。

(単位:億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	81	38	▲43	▲52.7
営業利益	8	▲0	▲9	—

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

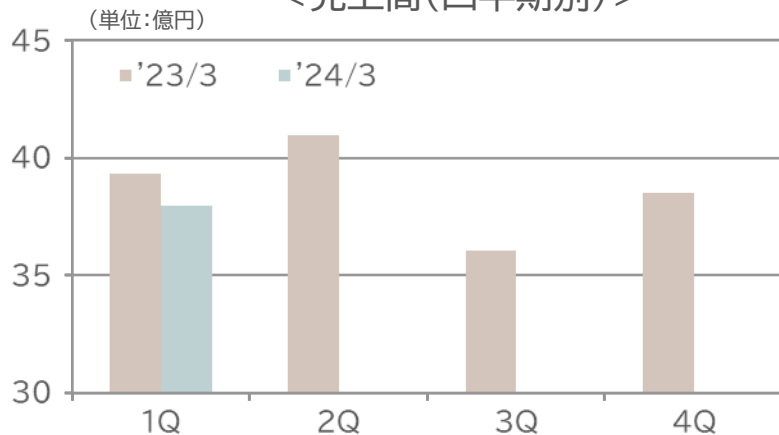


## 2024年3月期第1四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

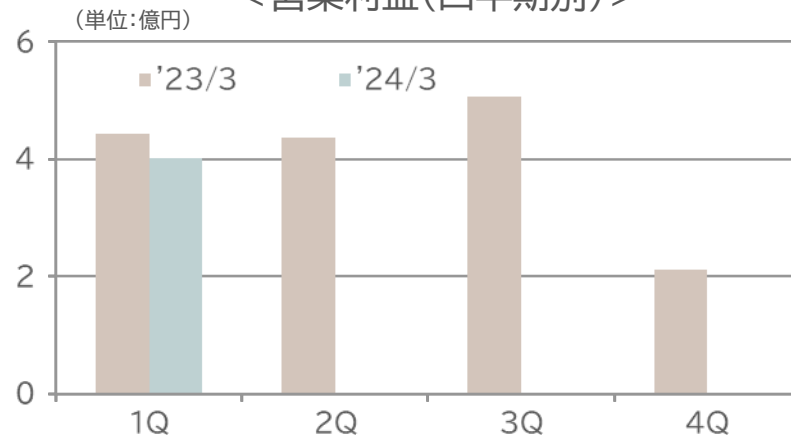
保管料の値上げを進めたものの、荷動き低調による取扱い数量減少の影響で若干減収。

(単位:億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	39	37	▲1	▲3.5
営業利益	4	4	▲0	▲9.4

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>



## 今後の見通し・取組み



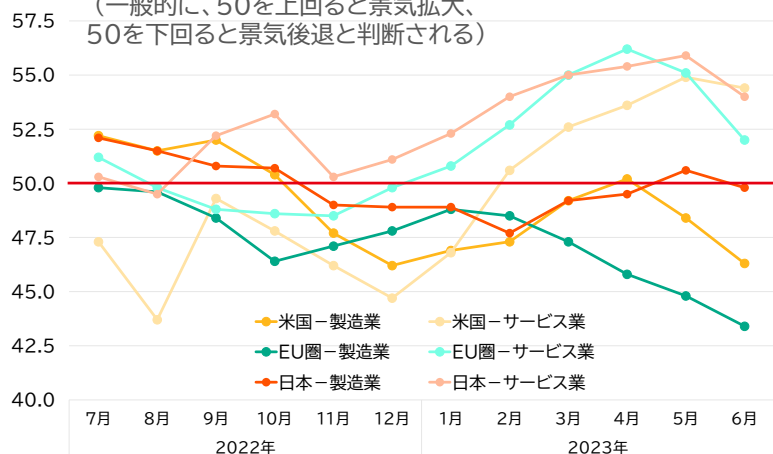
順調な滑り出しも取り巻く環境は不透明。

▶ 欧米を中心とした景気減速や日本を含めた人件費等のコストの高止まりが懸念材料

▶ 水産市況はいくつかの魚種に変調が見られる。

## <日本・欧米購買担当者景気指数(PMI)>

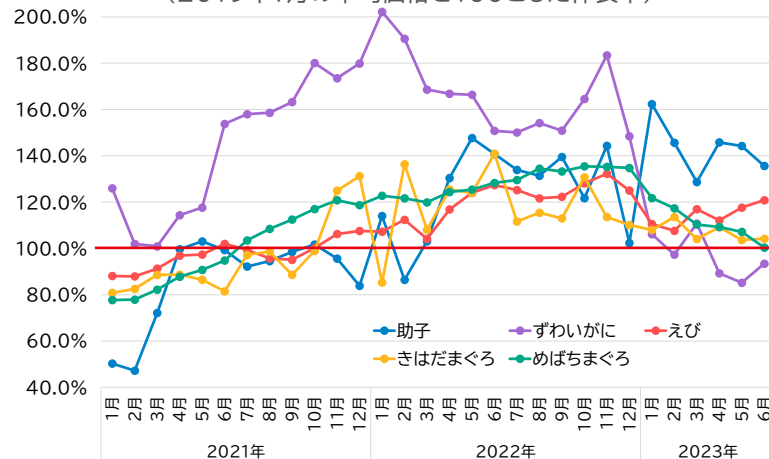
(一般的に、50を上回ると景気拡大、50を下回ると景気後退と判断される)



(出典:S&P Global)

## <魚種別価格伸長率推移>

(2019年1月の平均価格を100とした伸長率)



(出典:財務省貿易統計)

## 今後の取組み：水産事業(養殖)

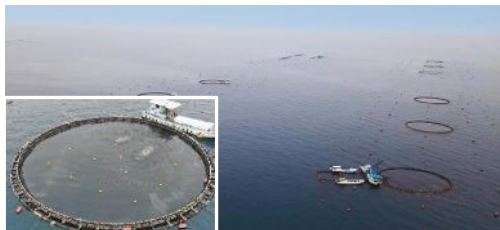
### 養殖ビジネスの高度化と拡大で水産事業の収益安定化へ。

<ROIC向上の施策>



営業利益後 税引後	効率化・最適化	(ぶり)大型生簀への転換による数量増と作業集約で生産性改善 (まぐろ)2つの養殖会社の協働によるコスト削減
	高付加価値商品	(南米)フィレ製造ラインへの投資により高付加価値品販売を拡大し、収益力を向上させる。
資投本下	養殖技術の高度化	短期間で大きく育つ養殖の拡大(完全養殖ぶり、短期畜養まぐろ)
		魚病対策などで斃死率を低減し養殖魚への投資効率向上

(日本)ぶり養殖の大型生簀導入で生産性を改善。



(日本)漁業と養殖の機能を融合した差別化事業を拡大

グループの漁撈会社がまぐろを漁獲



共和水産株式会社 nissui group

短期間畜養  
(3~6ヶ月と  
在庫期間が短い)



台風・赤潮等の  
生育リスクを軽減

脂のりの良いまぐろを出荷





# 今後の取組み：水産事業(加工商事)

魚価変動に備え、仕入と在庫のマネジメントを徹底していく。

<ROIC向上の施策>

税引後営業利益	事業拡大	イギリスの宅配事業参入で、需要が高まる水産加工品をEコマースで展開し顧客接点を拡大
	高付加価値商品	(日本)食材化を進め、市況に打たれ強い安定した収益体制を構築
	北米加工	製品価格の下落・労働コスト上昇などにより、苦戦を見込まれるが、フィレ生産比率を高め収益確保を目指す
資投本下	在庫削減	需給バランス・価格において先行き不透明な状況が続くため、仕入と在庫の管理を徹底する

(欧州)英国での水産加工品のEC事業展開を加速。



(日本)水産物の高付加価値化を進める。



<在庫マネジメントの徹底>

積極的な販売

販売計画に紐づいた仕入

在庫

## 今後の取組み： 食品事業(日本)

値上げは浸透した一方、数量減が出始めた。為替変動や原材料価格を注視しつつ、数量減を反転させるための施策を実施する。

<ROIC向上の施策>

営業利益	販売促進	家庭用/業務用ともに販売数量の減少が見込まれるものの、販売促進で回復に努める
	高付加価値商品	速筋タンパク・EPA含有商品など独自技術を基にした健康食品の拡売 チルドと冷凍食品の融合により、国内食品事業の拡大と収益力向上を図る
資本	投資効率向上	チルド・食品工場の生産体制を最適化し、工場稼働拡大
		アイテム削減を実施し、生産工場の効率アップ

ニッスイ独自の技術と商品で健康課題の解決に取り組む

速筋タンパク商品(一例)



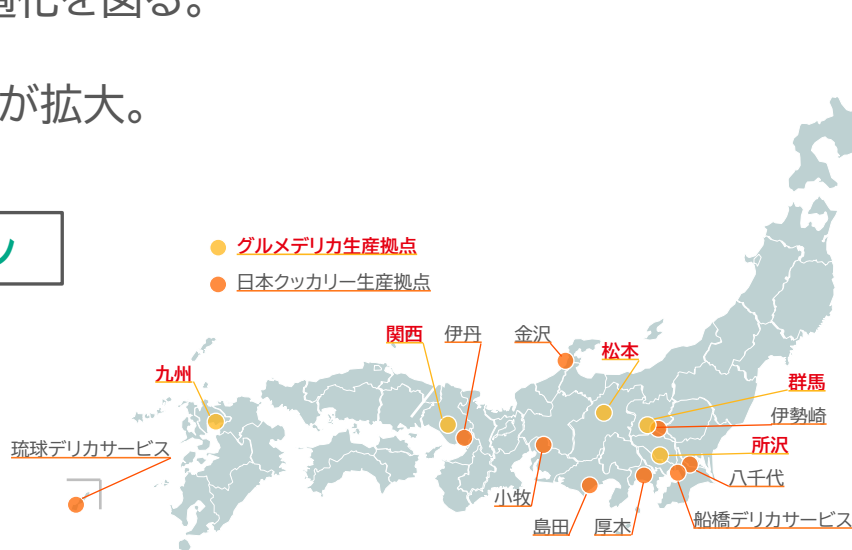
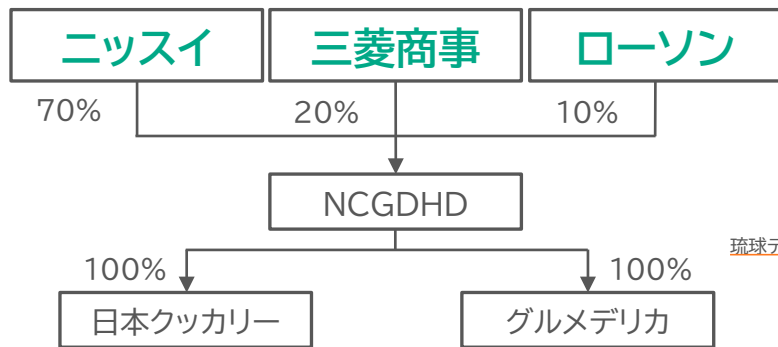
フローズンチルド/冷凍弁当・冷凍惣菜を拡大し、内食需要などに対応



## 今後の取組み： 食品事業(チルド)

日本クッカーリーと新たにグループ入りしたグルメデリカの統合による生産体制の最適化や商品開発体制の強化などを急ぐ。

- ▶ 既存の9工場にグルメデリカの5工場が加わり14工場となった。  
⇒ 生産性向上に向けた工場の最適化を図る。
- ▶ グルメデリカの加入でカバーエリアが拡大。  
⇒ 配送効率等を高めていく。



稼げる海外事業を拡大し利益率改善。

<ROIC向上の施策>



税引後営業利益	北米	(家庭用)主力の白身魚フライ商品に加え、健康志向の新商品「Air Fried」を各メディアを活用して拡販していく
		(業務用)商品構成の改善などで利益水準を高めていく
	欧州	昨年買収したケラナ工場(フランス)を拡張し生産能力を拡大することを検討
		原料調達リスクを低減するために新規調達先を開拓 フランス周辺国へ販売エリアを広げる
資投本下	北米	主要顧客以外の取引先獲得による工場稼働増
	欧州	冷凍機能力増強など生産ラインの整備による生産性改善

(北米)TVCMやSNSなど様々な媒体を活用し販売促進を積極的に実施



(欧州) スペインやイタリアなどに販売エリアを拡大



生産能力を増強するための投資検討

# 今後の取組み：健康に配慮した商品の拡大

素材の機能性と生産技術を融合し、健やかな生活に貢献する商品の展開を進める。

国内		海外	
<h3>速筋タンパク</h3>  <p>速筋タンパクを 手軽に摂取できる バータイプ商品</p>  <p><b>糖質30%オフ</b></p> <p>速筋タンパク機能に 加え、糖質を30% 抑えたちくわ</p>	<h3>機能性表示食品</h3> <p>機能性表示食品 中高年の方の加齢に伴い 低下する認知機能の一部である</p> <h2>記憶力を維持する</h2> <p>記憶力は、一時的に物事を記憶し、思い出す力をいいます。</p> <p>記憶力維持と 減塩技術を組み 合わせたEPA・ DHA入りフィッ シュソーセージ</p>  <p>機能性表示食品 記憶力を維持する EPA+DHA チーズinスティック 減塩 塩分30% カット</p>  <p>EPA+DHA 50%入り 2本入</p> <h2>減塩</h2>	<h3>脂質50%減</h3>  <p>(米国) 脂質を半分に抑えた フライ商品</p>	<h3>野菜製品</h3>  <p>(欧州) 国内外で需要が 高まる野菜製品</p>

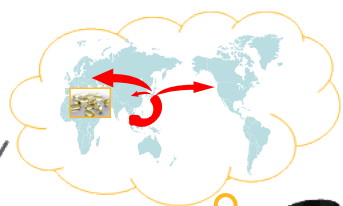
## 今後の取組み： ファインケミカル事業

欧州向け医薬原料の展開に備え、生産販売の両面での体制を整える。  
通販・物販は魚油の匂いなどを抑える技術を活用した商品を充実させる。

<ROIC向上の施策>



税引後営業利益	医薬原料	(欧州)EMA(欧州医薬品庁)へ申請準備。 (国内)EPA新剤型の処方拡大による生産拡大に期待、国産イワシ油の活用。
	通販・物販の国内販売	DHAアーモンド豆乳を中心に、更なる商品展開を準備中 ドラッグストアやディスカウントストアとの協働による小売市場への展開(速筋タンパク粉末飲料・スープなど)
資投下	生産効率向上	国内生産工場における在庫管理の徹底



欧州展開に向けた申請準備を継続



新商品のDHAアーモンド豆乳に加え、EPAドリンクを展開予定



魚油の脱臭・脱色・酸化防止技術を活かした商品を展開

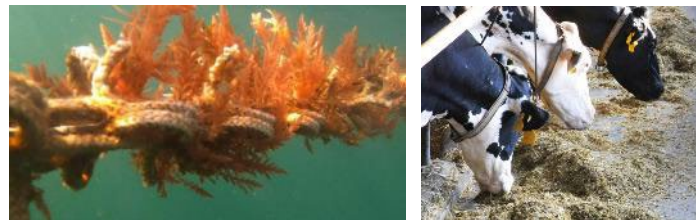
粉末飲料やスープに加え、EPA・DHA入りグミを展開予定



※イメージ

## 牛などが排出するメタンガスの削減を目指す

- ▶ 「カギケノリ」は反芻動物が排出するメタンガス発生の抑制に寄与し、畜産分野における温室効果ガス排出削減策として注目されている。



- ▶ カギケノリの陸上養殖を目指すオーストラリアの会社の株式の一部を取得し、業務提携契約を締結。

- ― 同社はカギケノリの種苗生産技術・高効率の陸上養殖システムを開発している。
- ― 温室効果ガス排出削減策にも貢献するこの協業を、サステナブルな未来の実現につながる新しい“食”の取組みとして推進する。

海藻陸上養殖の知見や技術の取得にも期待。





## 社会課題解決の取組み：ESG投資指数構成銘柄に選定

サステナビリティの取組みが評価されてきている。

### ▶ 「FTSE Blossom Japan Index(※)」(ESG投資指数)の構成銘柄に選定(2023年6月)

- ー GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が運用している6本のESG指数のうち4本の構成銘柄に選定済み。
- ー CO2排出量削減や人権の尊重など、サステナビリティの取組みが評価されてきた。


 <b>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</b>	 <b>S&amp;P/JPX カーボン エフィシエント 指数</b>
2023 CONSTITUENT MSCI 日本株 女性活躍指数(WIN)	
Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index (GenDi J)	



## FTSE Blossom Japan Index

(※)日本株310銘柄(2023年6月19日時点)で構成されており、ESG評価の高い日本企業のパフォーマンスを測定するために設計された指数。





変化への対応力を上げ、  
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(Good Foods 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



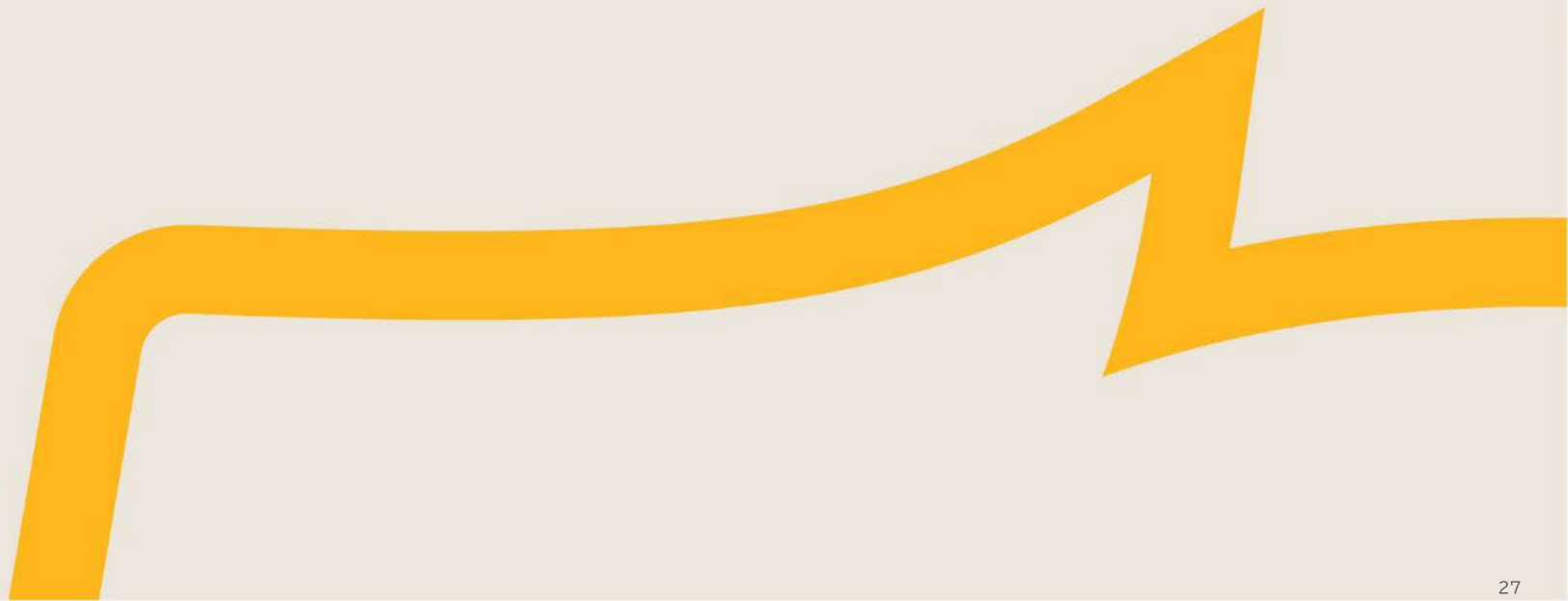
**まだ見ぬ、食の力を。**

株式会社ニッスイ  
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課  
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 參考資料



## 2024年3月期第1四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減	主な増減要因
売上高	<b>1,842</b>	<b>1,998</b>	<b>155</b>	
売上総利益	<b>296</b>	<b>330</b>	<b>33</b>	
販売費・一般管理費	229	232	3	
営業利益	<b>66</b>	<b>97</b>	<b>30</b>	
営業外収益	10	7	▲ 3	為替差益▲4、持分法投資利益+1
営業外費用	3	7	3	支払利息+3
経常利益	<b>73</b>	<b>97</b>	<b>23</b>	
特別利益	11	3	▲ 7	投資有価証券売却益+3、関係会社株式売却益▲10
特別損失	9	11	2	事故関連損失+10、投資有価証券評価損▲4、災害による損失▲3
税金等調整前四半期純利益	<b>75</b>	<b>89</b>	<b>13</b>	
法人税等	23	27	4	
法人税等調整額	8	2	▲ 6	
四半期純利益	<b>44</b>	<b>59</b>	<b>15</b>	
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失	2	▲ 0	▲ 2	
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>42</b>	<b>59</b>	<b>17</b>	

## 2024年3月期第1四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2023年3月期 第1四半期		2024年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	396	467	415	555	19	87	22	65
EUR(百万ユーロ)	98	129	120	173	22	44	29	14
DKK(百万クローネ)	833	147	864	167	30	19	5	14
その他通貨	—	77	—	84	—	7	2	4
計		821		980		159	60	99

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第1四半期の平均

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	変動率
米ドル(USD)	117.79 円	133.44 円	13.3%
ユーロ(EUR)	131.57 円	143.96 円	9.4%
デンマーククローネ (DKK)	17.68 円	19.34 円	9.4%

# 2024年3月期第1四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	588 (28)	160 (17)	74 (7)	16 (2)	187 (24)	1,027 (80)	▲237 (▲47)	789 (32)
	559	142	67	14	163	947	▲190	757
食品事業	637 (55)	319 (62)		25 (0)	195 (45)	1,177 (164)	▲86 (▲3)	1,090 (160)
	581	256		24	150	1,012	▲83	929
ファイン 事業	44 (▲42)			0 (▲0)		44 (▲43)	▲6 (0)	38 (▲43)
	87			1		88	▲6	81
物流事業	70 (▲3)					70 (▲3)	▲32 (1)	37 (▲1)
	73					73	▲34	39
その他 事業	56 (▲8)			0 (▲0)		56 (▲8)	▲15 (15)	41 (6)
	65			0		65	▲30	34
仮計	1,396 (29)	479 (80)	74 (7)	43 (1)	382 (69)	2,377 (188)		
	1,367	399	67	41	313	2,188		
連結調整	▲249 (▲21)	▲52 (▲13)	▲43 (2)	▲29 (▲0)	▲4 (▲0)		▲378 (▲32)	
	▲227	▲38	▲45	▲29	▲4		▲346	
連結計	1,147 (8)	427 (66)	31 (9)	13 (1)	378 (69)			1,998 (155)
	1,139	360	21	11	309			1,842

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

# 2024年3月期第1四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	34 (13)	10 (3)	3 (▲0)	0 (0)	3 (▲1)		52 (16)	▲10 (▲14)	42 (1)	5.3 (▲0.1)
	20	7	3	0	4		36	4	41	5.4
食品事業	41 (25)	19 (3)		1 (▲0)	11 (7)		74 (35)	▲1 (▲0)	72 (35)	6.6 (2.7)
	15	15		2	4		38	▲1	36	3.9
ファイン 事業	▲0 (▲8)			▲0 (▲0)			▲0 (▲9)	▲0 (▲0)	▲0 (▲9)	▲2.0 (▲12.9)
	8			0			8	0	8	10.9
物流事業	4 (▲0)						4 (▲0)	0 (0)	4 (▲0)	10.6 (▲0.7)
	4						4	0	4	11.3
その他 事業	1 (▲1)			0 (▲0)			1 (▲1)	0 (1)	1 (0)	4.5 (▲0.5)
	2			0			2	▲1	1	5.0
全社経費						▲22 (3)	▲22 (3)	0 (0)	▲22 (3)	
						▲25	▲25	▲0	▲26	
仮計	80 (28)	30 (7)	3 (▲0)	1 (▲1)	15 (5)	▲22 (3)	109 (44)			
	51	22	3	3	9	▲25	65			
連結調整	▲5 (▲7)	▲7 (▲5)	2 (▲0)	0 (0)	▲1 (▲0)	0 (▲0)		▲11 (▲13)		
	2	▲2	2	▲0	▲0	0		1		
連結 計	74 (20)	22 (2)	5 (▲1)	2 (▲0)	14 (5)	▲22 (3)			97 (30)	4.9 (1.2)
	53	20	6	2	8	▲25			66	3.6

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

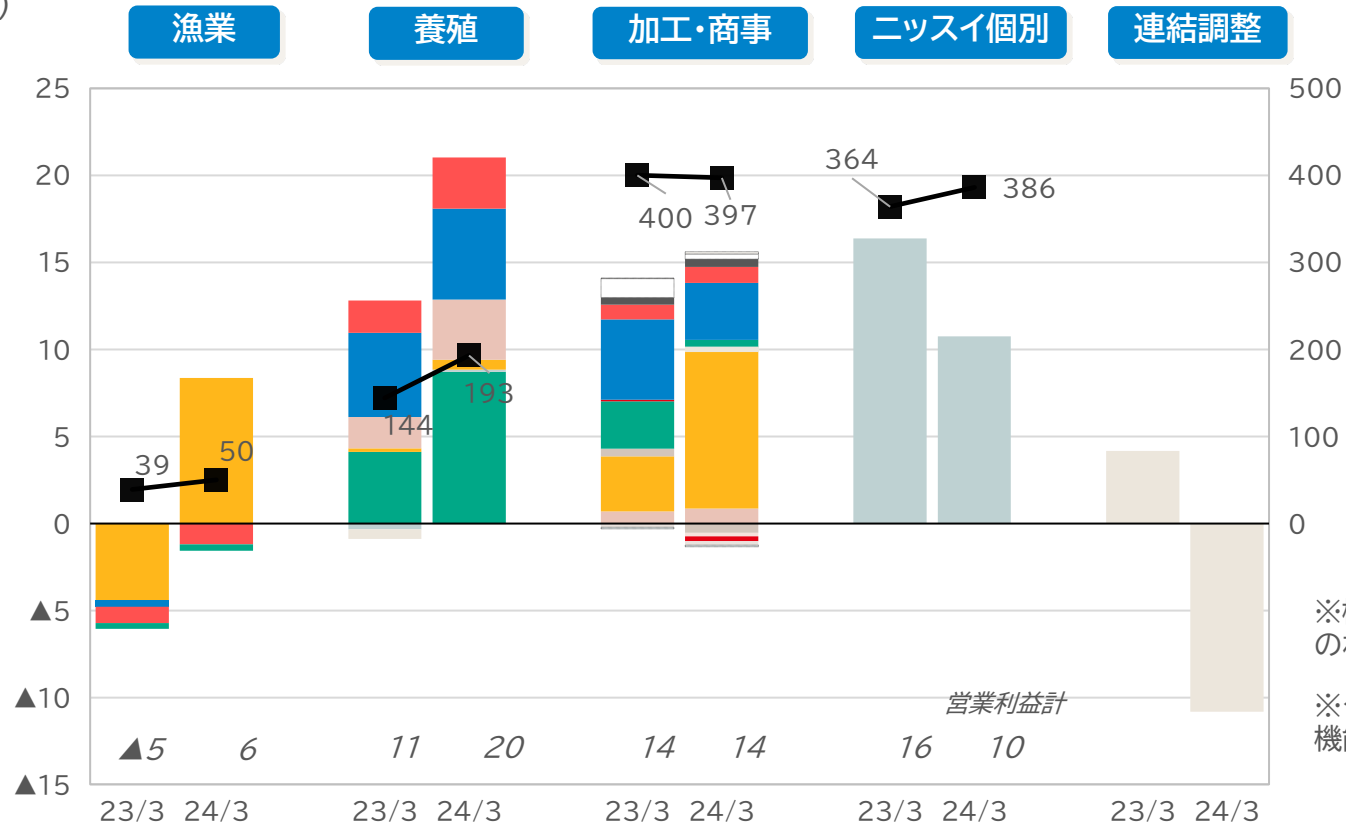
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

# 2024年3月期第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)



※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

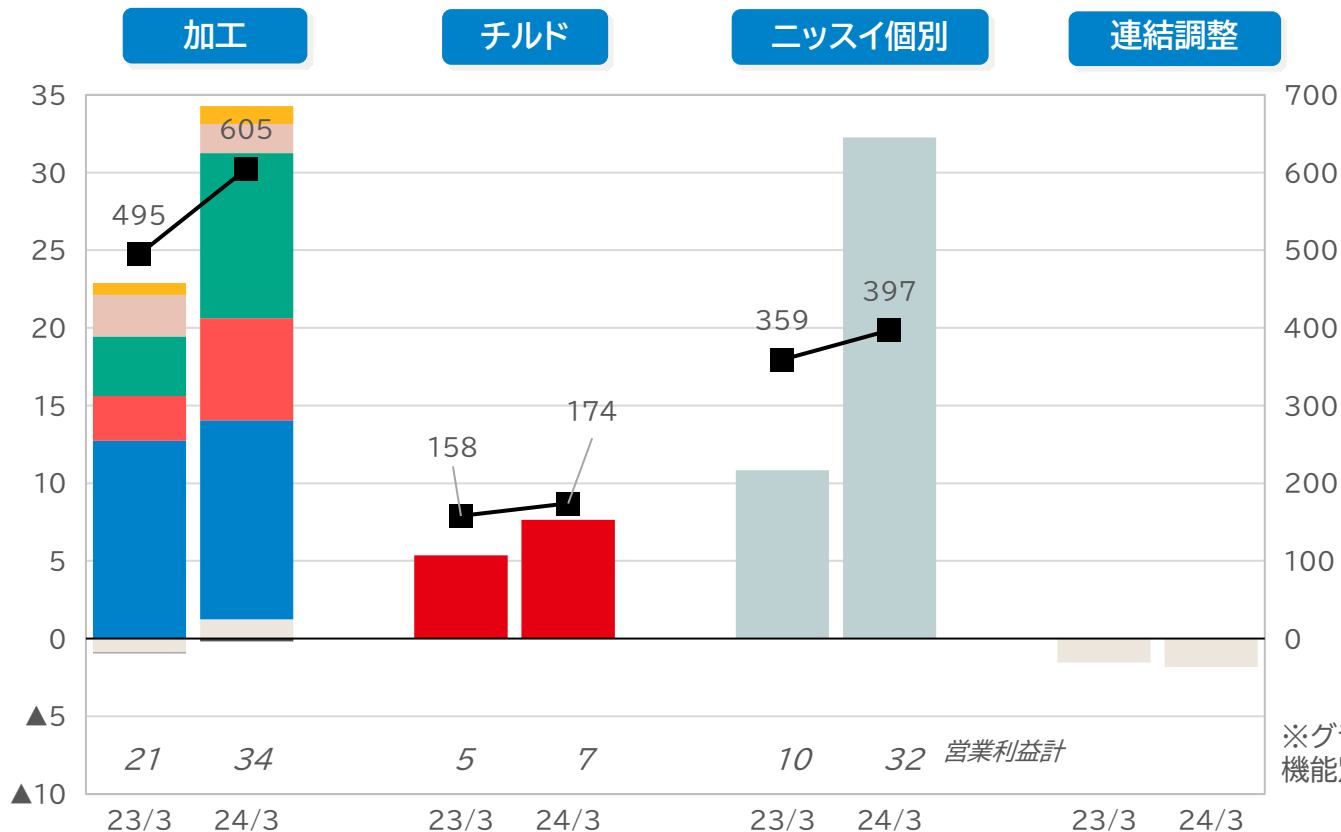


# 2024年3月期第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

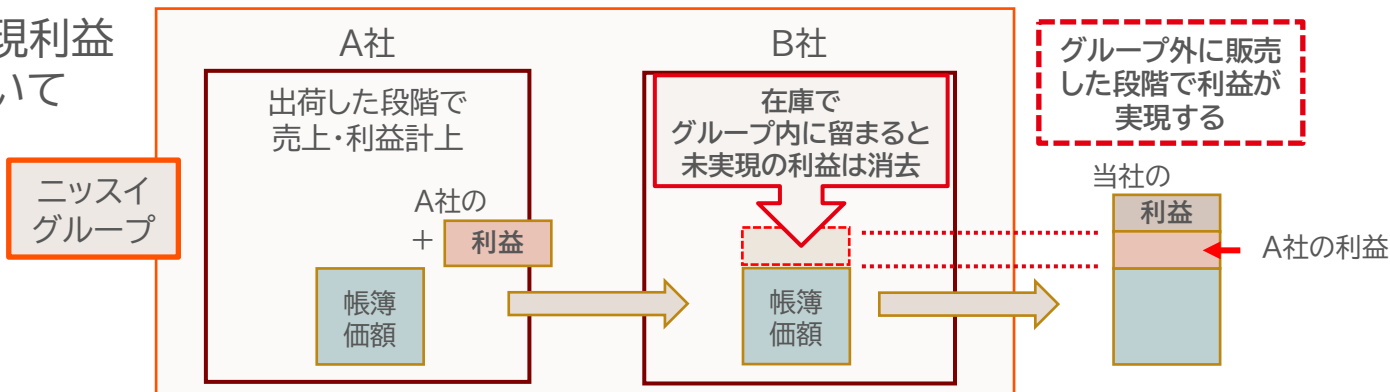
(単位:億円)



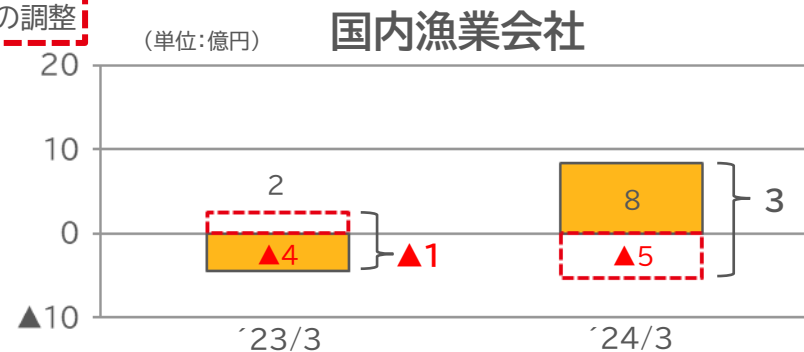
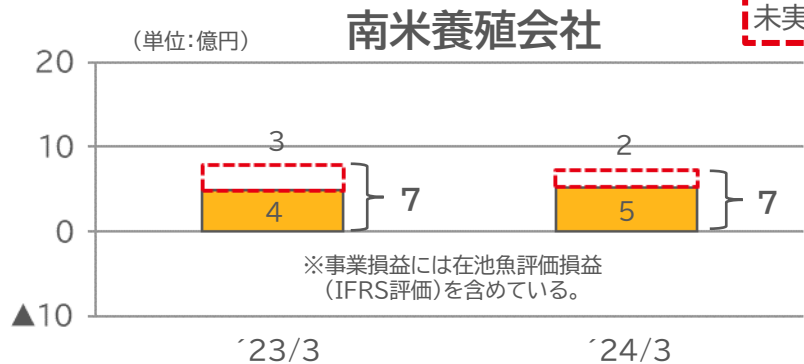
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

# 未実現利益の調整について

## ▶ 未実現利益について



事業損益※  
未実現利益の調整





まだ見ぬ、食の力を。